

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課

担当課長名：荒瀬 美和

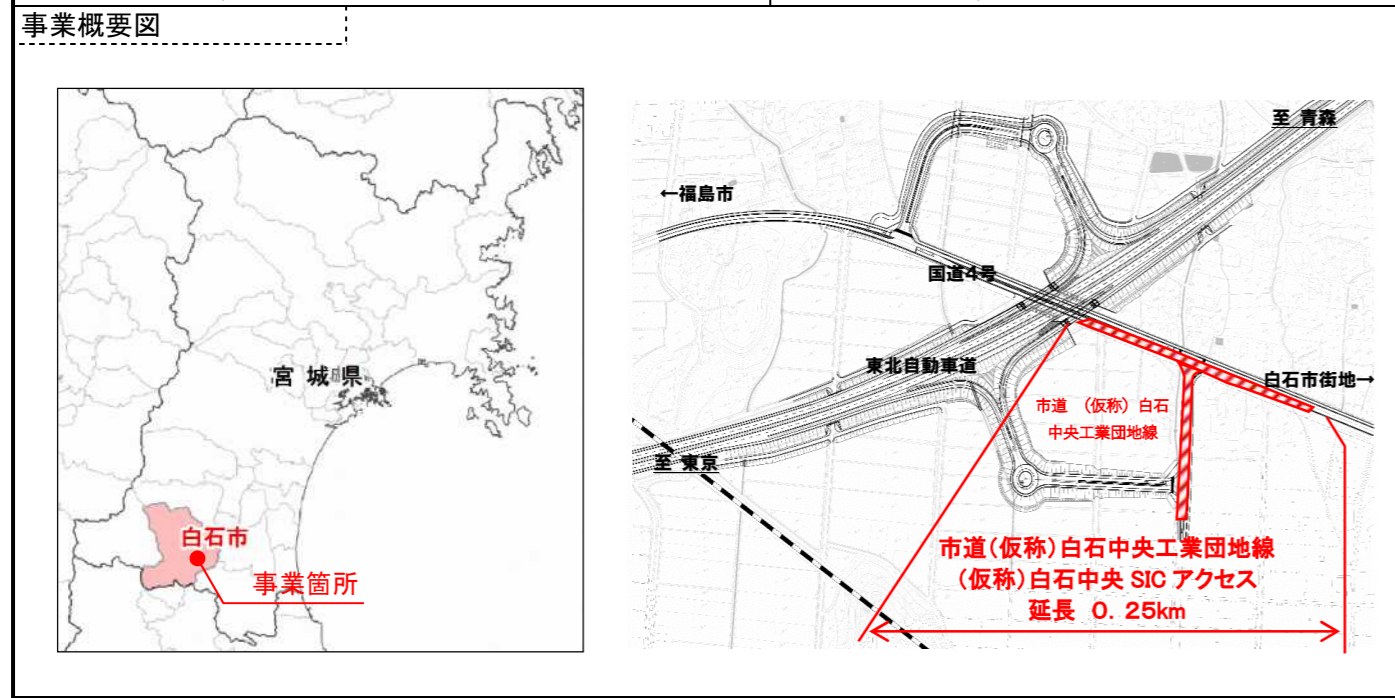
事業の概要

事業名	スマートICアクセス 市道（仮称）白石中央工業団地線	事業区分	地方道	事業主体	白石市
起終点	自：宮城県白石市大平中目 至：宮城県白石市大平中目	延長	0.25 km		

事業概要
市道（仮称）白石中央工業団地線は、今後整備予定の白石中央スマートインターチェンジのアクセス道路として、白石市の基幹産業である製造業を支援し、高速道路を活用した観光産業の活性化を目的に整備するものである。

事業の目的、必要性
市道（仮称）白石中央工業団地線を整備することにより、白石市内から東北自動車道へのアクセスが向上し、物流の効率化が図られることで、白石市の基幹産業である製造業の支援が期待されるとともに、観光客に人気の高い白石西部エリア等への新たな周遊観光ルートが形成され、高速道路を活用した観光産業の活性化に資する事業である。

全体事業費	約1.3億円	計画交通量	約800台/日
-------	--------	-------	---------



関係する地方公共団体等の意見
地元住民、地元市議会議員及び地元商工会、観光協会から白石中央スマートインターチェンジ完成に併せた事業完成を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
新規事業化は妥当である。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。
令和2年度より白石中央スマートインターチェンジが事業着手している。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.1	総費用：0.99億円 （事業費：0.98億円 維持管理費：0.01億円）	総便益：1.1億円 （走行時間短縮便益：1.1億円 走行経費減少便益：0億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年：令和2年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 1.2 (交通量 +10%)	B/C= 1.0 (交通量 -10%)		
		事業費変動	B/C= 1.0 (事業費変動 +10%)	B/C= 1.2 (事業費変動 -10%)		
	事業期間変動	B/C= 0.9 (事業期間変動+20%)	B/C= 1.4 (事業期間変動 -20%)			
事業の影響	評価項目		評価	根拠		
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	新たな交通ネットワークが構築され、交通の転換が図られることで、交通混雑の緩和が期待される。		
		事故対策	○	新たな交通ネットワークが構築され、交通の転換が図られることで、交通量の減少により、安全確保が期待される。		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	中心市街地へのアクセス性が高まることで、地域資源を活かした中心市街地への賑わい創出や交流人口の拡大が期待される。		
		地域経済	◎	物流が効率化することで基幹産業である製造業の支援が期待され、SIC整備に合わせて、その周辺へ新たな産業拠点を形成することで、企業誘致の促進や振興が期待される。		
災害		◎	大規模災害時においても、緊急輸送道路である東北自動車道へのアクセスが図られることにより、信頼性の高い交通ネットワークが確保されるとともに、避難・救助を始め物資供給等の応急活動への寄与が期待される。			
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	アクセス性が向上することで、白石の西部エリアや角田・丸森方面への新たな周遊観光ルートが形成されることにより観光産業の活性化が期待される。			
事業実施環境	○	東北自動車道への連結許可（R2.10.16） 地元住民、地元市議会議員及び地元商工会、観光協会から白石中央SIC完成に併せた事業完成を要望されている。				

採択の理由

事業主体である白石市が実施した評価に基づけば、費用便益費が1.1と、便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、地域経済・地域社会へ与える影響が大きく、インターアクセスにおける安全で円滑な通行確保に期待できる等、当該事業の整備必要性は高いものと判断される。
以上により、本事業は令和3年度の新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。